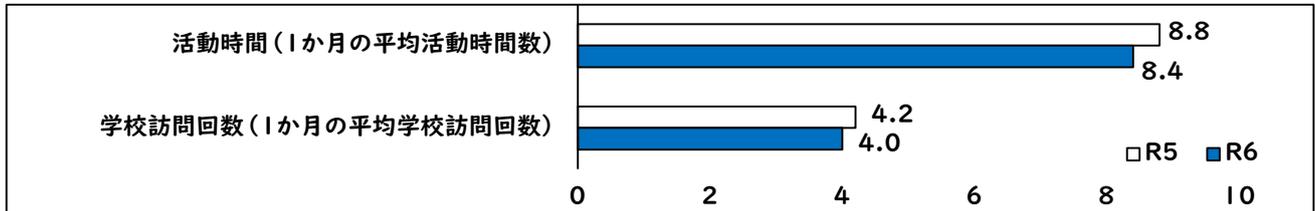


令和6年度「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査結果

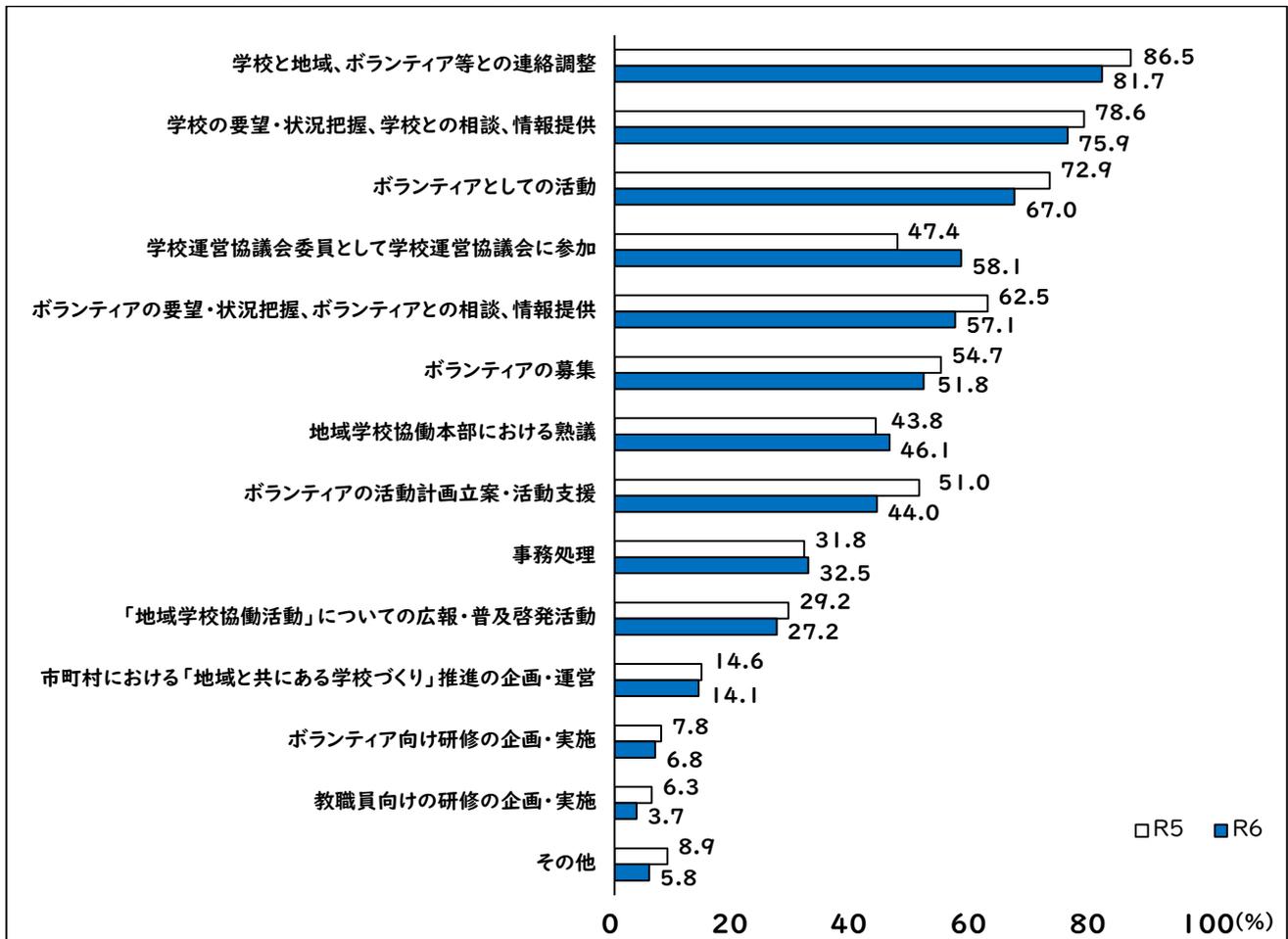
地域学校協働活動推進員等について

地域学校協働活動推進員等の現状について



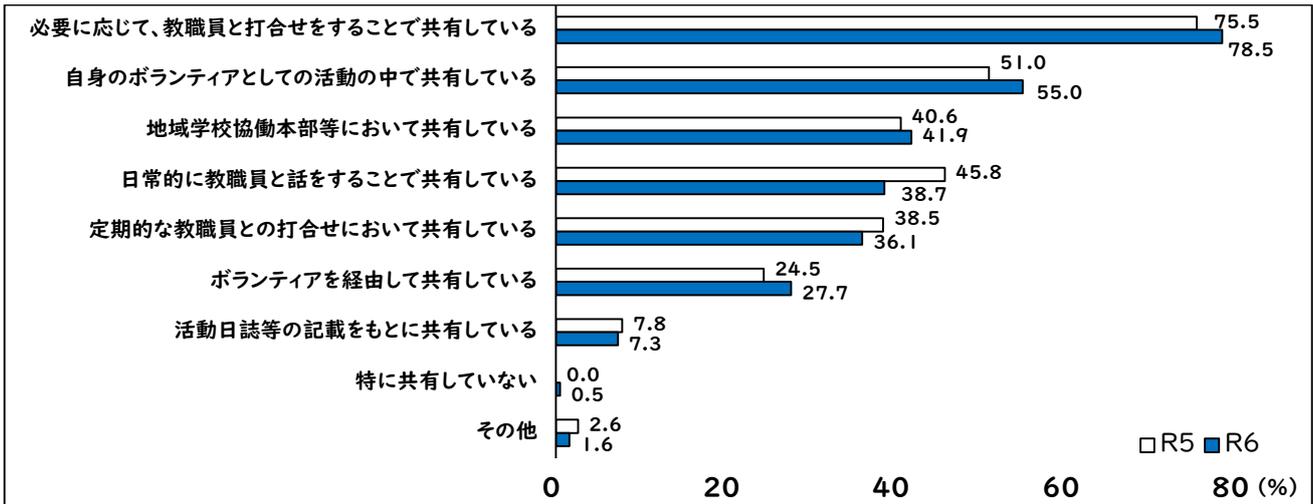
地域学校協働活動推進員等としての活動について

◎地推員等として取り組んでいる活動内容（複数回答）



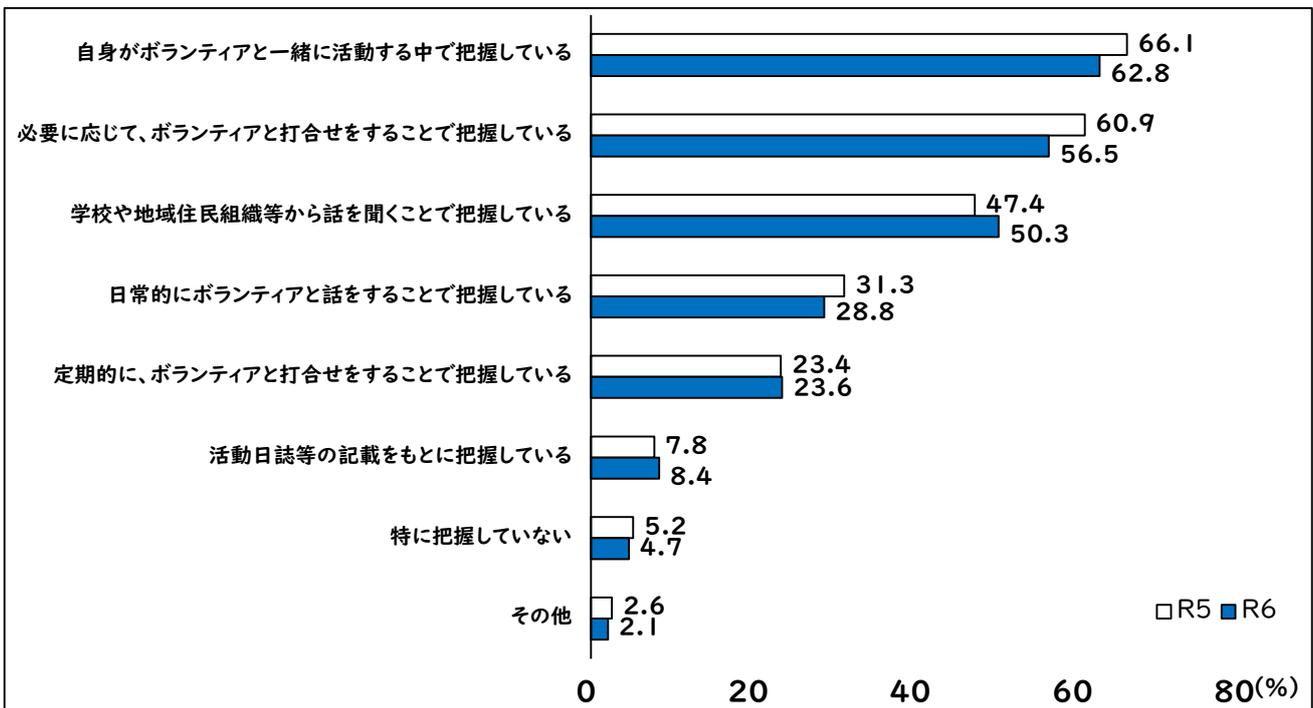
○地推員等として取り組んでいる活動内容は、自身の「ボランティアとしての活動」だけではなく、「学校と地域、ボランティア等との連絡調整」、「学校の要望・状況把握、学校との相談、情報提供」など多岐にわたっています。また、今年度は「学校運営協議会委員として学校運営協議会に参加」の割合が大きく増加しました。

◎学校との情報共有の方法（複数回答）



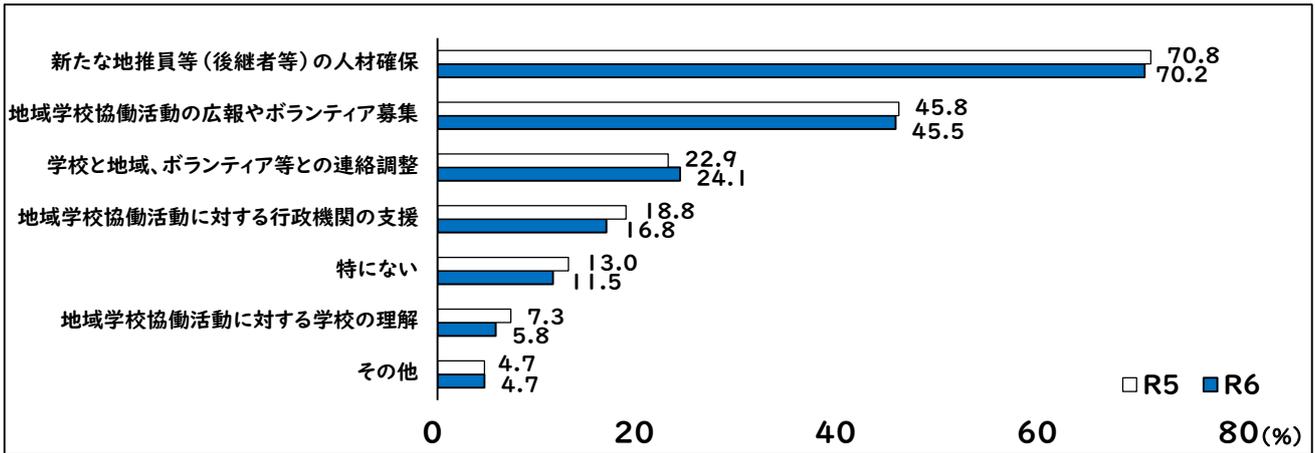
○「必要に応じて、教職員と打合せをすることで情報を共有している」の割合は、昨年度同様に最も高いですが、「自身のボランティアとしての活動の中で共有している」、「日常的に教職員と話をすることで共有している」、「定期的な教職員との打ち合わせにおいて共有している」の割合が増加しています。

◎ボランティアの要望把握の方法（複数回答）



○「自身がボランティアと一緒に活動する中で把握している」、「必要に応じて、ボランティアと打合せをすることで把握している」の割合は、昨年度同様に高いですが、「学校や地域住民組織等から話を聞くことで把握している」の割合が増加しています。

◎地推員等として活動に取り組むうえで、困難に感じていること（複数回答）



○「新たな地推員等（後継者等）の人材確保」、「地域学校協働活動の広報やボランティアの募集」について困難さを感じています。

◎ボランティア募集の際に行っている工夫について

- ボランティア募集のチラシを地域に回覧している。
- LINE等のSNSの活用。
- 新1年生保護者説明会の資料にあわせて、「地域ボランティア概要」の説明資料を作成、添付している。実際の募集は、公民館便りで案内を全戸配布するが、地域ボランティアの情報を入学前に知らせて理解しやすくしている。
- チラシや「すぐる（メール）」での募集がメインであるが、ロコミでボランティア活動の楽しい部分を広めていただくことが、効果的であると感じている。

その他（地域学校協働活動推進員等の意見）

- 地域住民と子ども達との交流を密にし、高齢化社会にも適合する関係を築いていきたいと考えています。地域住民に可愛がれる学校づくりをしたいと思います。
- 今後も、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、また学校教育活動が円滑に進むように学校や地域と連携しながら関わっていききたいと思います。
- 学校からの声を拾い上げ、地域の実情に応じた活動が大切であると切に考えています。特に学校と地域の連携、協働をはかり、支援にとどまらない活動にする必要があると考えています。
- 地域・保護者が先生の困り感を理解して協力する姿勢を持つことが大切だと感じます。さまざまなことを学校へ要望して学校が全てするというより、学校の負担が大きいなら、我々で行う、先生たちを助けるという気持ちが広まればもっと良くなると思います。

地域学校協働活動を推進するためには、地推員等の役割が重要です。学校と地域をつなぐ活動を引き続きお願いいたします。

- 自らのボランティアとしての活動だけでなく、学校と地域（ボランティア等）をつなぐ活動は、地推員等の基本的かつ重要な役割です。地域の実情や学校の様子、ボランティアの思い等を考慮していただき、地域と学校をうまくつないでいただきますようお願いいたします。
- 学校運営協議会において設定・共有された目標を反映した地域学校協働活動を行うために、日常的に教職員やボランティアとコミュニケーションを取りながら、活動をコーディネートしていただきますようお願いいたします。
- 様々な活動や人材をつないでいただき、子どもたちの豊かな成長につながるよう、多様な地域学校協働活動を行っていただくようお願いいたします。県教育委員会としては、地域住民による地推員等が配置できるよう市町村教委を支援してまいります。
- 人と人とのつながりを広げるために、PTAや地域などへSNS等も活用しながら地域学校協働活動の広報・普及啓発活動を積極的に進めていただくこと、また、地域の回覧板、学校の一斉メール、ボランティア募集カード、QRコード等を活用してボランティアを募ることで、さらに多様な人材による地域学校協働活動の参画を今後ともお願いいたします。